

## ハダニ類（カンザワハダニ、ナミハダニ）

### ○ 被害と発生生態

体の大きさが約 0.5mm と小さく、主として葉裏に生息して葉に口針を刺して吸汁する。被害葉はカスリ状や白っぽくなり、次第に生育が衰える。

被害作物は、イチゴ、ナス、キュウリ、ホウレンソウ、アスパラガス等の野菜、ブドウ、ナシ、イチジク等の果樹、チャ、ダイズ等である。

ハダニ類は卵、幼虫、第1若虫、第2若虫と3回の脱皮をし、成虫になる。卵から成虫に発育するまでの発育期間は、温度によって左右され、12日間（30℃）～17日間（25℃）で、年間の発生回数は10回～13回となる。乾燥条件で発生が多くなり、施設内では1年中増殖する。

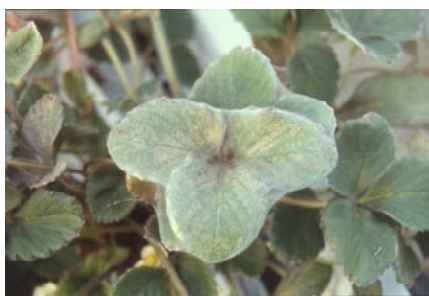
### ○ 防除方法

#### （ア）耕種・物理的防除

- ・発生源をなくすため、ほ場の残さの処分や付近の雑草の除去を行う。
- ・イチゴ等では下葉かきを励行する。かぎ取った葉はほ場周辺に放置せず、速やかにほ場の外に持ち出し処分する。

#### （イ）薬剤防除

- ・ハダニ類は部分的に発生することがあるので、ほ場全体をよく観察し、早期発見・初期防除に努める。
- ・発生前～発生初期に生物農薬（天敵のカブリダニ類等）を施用する。
- ・下葉の裏に多く寄生しているのので、葉液が葉裏に十分かかるように不要な下葉を除去した後丁寧に散布する。
- ・防除後も、定期的に発生の有無を確認し、発生を認めた場合は再度薬剤防除を行う。
- ・ハダニ類は薬剤に対する抵抗性がつきやすいので、同一薬剤の連用及び同一系統の薬剤の輪用は避ける。
- ・卵期間が7～10日あるため、気門封鎖剤等の物理的防除剤は7～10日間隔で2回連続して散布する。



イチゴの被害葉



ナミハダニ  
(雌成虫、卵)



カンザワハダニ  
(雌成虫、卵)

